

平成 30 年 6 月 5 日現在

機関番号：14501

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2014～2017

課題番号：26360020

研究課題名(和文) 東アジアにおける戦間期の秩序とソ連の極東政策：外交官と軍部、中央と地方

研究課題名(英文) International Order in East Asia During the Interwar Period and the USSR's Far Eastern Policy: Diplomats and Military, Center and Periphery

研究代表者

シュラトフ ヤロスラフ (SHULATOV, Yaroslav)

神戸大学・国際文化学研究科・准教授

研究者番号：30726807

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,700,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、日露両国の中央と地方の一次資料に基づき、1920年代に重点を置きながら、ソヴィエト政権の極東政策、特に対日関係を通じて、戦間期の東アジアの国際秩序を分析した。主にロシア中央・極東地域の文書館において調査を行い、未公開の資料を活用し、帝政期のアプローチとの継続性、外交官と軍部をはじめとし、中央と地方の政治的アクターの姿勢を究明し、当該時期のソ連の極東・対日政策を包括的に研究し、東アジアにおける新秩序の形成過程を考察した。毎年現地調査が実施され、国内外において学会発表や原稿投稿が積極的に行われ、研究成果は教科書並びに教育プログラムに取り入れられ、日露両国及び国際レベルでアピールされた。

研究成果の概要(英文)：This project investigated the Far Eastern policy of Soviet Russia and its relations with Japan during the 'interwar period', particularly in the 1920s. It based primarily on the declassified materials from the Japanese and Russian central and regional archives, and an active fieldwork was conducted. The research focused on the transition process from the Imperial Russia's period, the issues of continuity and contradictions in approaches towards the international settings, comparative analysis of position of various political actors in the center and periphery, mostly diplomats, military circles and the party officials and influential figures. The results of this study were presented earnestly in various conferences, books etc. in Japan, Russia and on the international arena. Some of them were implemented in textbooks and study programs both in Japan and Russia.

研究分野：歴史学

キーワード：日露関係 日ソ関係 ロシア研究 東アジア 極東地域 外交史 軍部 政策決定過程

## 1. 研究開始当初の背景

研究代表者は、以前にロシア帝国末期の対日政策・日露関係の研究に取り組み、中央と地方のあらゆる政治的アクターの対日観を明らかにし、政策決定過程を包括的に研究した。その後、科学研究費補助金(H22 - 23、特別研究員奨励費)を受け、1925年に赴任した初代駐日ソ連大使コップに関する一次資料を発掘し、ソ連の外交官がロシア帝国時代の対日アプローチを検討したという新事実を明らかにした。これにより、日ソ基本条約直後にソ連の外交官が立案した政策の一部が解明された。しかしながら、ソ連の極東政策の枠組みにおける対日関係の位置、対中政策との対比、中央と地方における勢力の立場の比較分析などの課題が残った。さらに、それまでの過程、とりわけ、ロシア革命(1917年)以降から日ソ関係樹立までのソヴィエト政権の極東政策、特に対日関係に関する政策決定過程がまだ十分に解明されておらず、主要な政治的アクターの立場、ロシア帝国及び臨時政府のアプローチとの継続性などを明らかにする必要がある。以上のため、研究代表者はこれらの問題を究明するとし、これまでの研究の継続である本研究に着手した次第である。

## 2. 研究の目的

本研究の目的は、「研究の背景」に指摘した問題点を克服することであった。(1)ソヴィエト政権樹立後、ボリシェヴィキは如何なる対日・極東政策を考え、内戦及び諸外国による干渉の中で政策概念がどのように変容したのかを明らかにする。(2)この概念、ソヴィエト政権の対日アプローチは帝政時代及び臨時政府時代との共通点・相違点を明確にし、継続性問題を追究する。(3)中央と地方の政治的アクター、特に外交官(外務人民委員部)と軍部(赤軍)の立場を考察し、ソ連の内外政策の機構及び政策決定過程を実証する。

以上のように、一次資料に基づき、これまで不透明であった要素を検証し、ソ連の極東・対日政策を解明し、戦間期の東アジアにおける国際秩序の形成過程について論じる。

## 3. 研究の方法

### (1) 方法論

総合的研究手法を通じて、ソ連極東政策の外交と軍事という二つの側面を総合する。特に、地域間比較と分野間比較の方法を重視し、東アジア各地におけるソ連外交政策アプローチと、政策立案・実行過程における各アクターの立場及び影響力を明確にし、ソ連極東政策の全体像を戦間期の東アジアにおける新秩序形成の角度から分析する。

### (2) 包括的な資料調査

本研究は新しい研究領域を開拓するものであり、一次史料が主要な情報源だという特徴がある。このため、積極的に現地調査を実施し、日露両国の文書館において新史料を博捜し、幅広く活用する。

### (3) 研究体制

一次史料を博捜しながら、地域間比較と分野間比較の手法の活用、国際的な研究協力、研究発表という3つの課題を推進するために、日本、ロシア、欧米の学会に毎年参加する。これにより、関連分野の国内外の研究者、特に普段切り離されている学界(例えばロシア研究とアジア研究、外交史と軍事史など)の専門家と緊密な関係を築き、最新の研究動向、方法論や史料状況について情報交換を行い、より国際的且つ実践的、グローバル舞台に通用する研究成果を心がける。

## 4. 研究成果

研究計画に基づき、毎年の重点課題を下記のように設定し、史料調査を実行すると同時に成果発表に取り掛かった：

2014年度「帝政期からソ連期へ：アプローチをめぐる議論」

2015年度「東アジアにおける基本的戦略と極東政策全体像の再構築」

2016年度「地方の観点：対日関係と東アジアの国際情勢」

2017年度「中央から見た対日・極東政策：発動期から日ソ国交樹立まで」

### 資料・現地調査

本研究の課題を達成するために、積極的に日露両国、特にロシアにおける大規模な資料調査を実施した。

\*日本では、主に外務省外交資料館やアジア歴史資料センターの資料を取り入れ、大学図書館などで調査した。これにより、ロシア内戦期及びその後の期間において日本側(外務省、軍部)と、ソヴィエト政権の極東政策と日ソ関係に関わり、来日した重要な人物(アントーノフ、ヴォズネセンスキー、スレパーク)との関係を考察し、新たな位置づけを提示した。

\*ロシアでの調査は、中央と地方のレベルで行われた。

まず、モスクワのロシア国立学術図書館で資料集や伝記などを熟読しながら、資料館での作業を重視した。具体的に、ロシア外務省のロシア連邦外交文書館(AVP RF)とロシア国立社会政治史文書館(RGASPI)において、外務人民委員部の中央機関と地方代表(駐中代表部、駐日代表部)、政治局や共産党関係者の書簡、ソヴィエト政権の極東政策に関わった要人(スターリン、チチェリン、カラハン、ヨッフエ、コップなど)の個人フォンドを調査した。次に、軍事的側面を追究するために、モスクワのロシア国立軍事文書館(RGVA)とサンクトペテルブルグのロシア

国立海軍文書館 (RGA VMF) で新資料を博捜し、赤軍の参謀本部及び極東地域の関係者が持った対日政策観を考察し、対中アプローチと比較しながら、ソ連極東における軍需産業の建設などに関する書簡を分析した。

そして、地方での現地調査として、ハバロフスクの極東国立学術図書館で作業しつつ、ハバロフスク州立文書館 (GAKhK) で一次史料を発掘し、ソ連極東の共産党関係者並びに執行機関が論じた日本及び満州との経済関係、国境問題、対日政策に関する助言などを究明した。さらに、日ソ関係初期において非常に重要な位置を占めた尼港事件を検証するために、事件現場のハバロフスク地方ニコラエフスク・ナ・アムーレ市を訪れ、郷土史博物館で調査を行い、現地の研究者と面談を重ねた。

以上のように、研究代表者は、専ら一次資料に基づき、1920年代に重点を置きながら、東アジア各地におけるソ連の対外政策 (特に対中・対日政策) を検証し、外交官と軍部、中央と地方の各アクターの立場を比較対照し、帝政期とも比較しながら、地域毎にイデオロギー的アプローチと帝国主義的手段を両方とも行使したソ連外交の二元性を追究し、その全体像を再構築した。

#### 研究成果の発表と活用

初年度の2014年から最終年度の2017年度まで、毎年国内外の学会で報告し、他の研究チームと協力しながらパネルを組織し、国際舞台において様々な形式で、日本語、ロシア語、英語で研究成果を発表するように努めた。この積極的姿勢の結果として、合計30点以上の業績を残すことができ、その内一部 (教科書『История Японии: учебник для студентов вузов (日本史)』、教科書『История российско-японских отношений: XVIII - начало XXI века: Учеб. пособие для студентов вузов (日露関係史: XVIII世紀からXXI世紀初期まで)』、『日露関係史: Параллель・ヒストリーの挑戦』など) は教科書並びに教育プログラムに取り入れられ、実践的に活用されている。

以上のように、本研究の成果は日露両国のみならず国際レベルでアピールされた。

#### 目標達成度及び今後の課題

「研究の目的」に指摘した課題は基本的に達成されたと言える。一方、本研究は、1930年代の問題も取り扱う原稿も発表したものの、主に日ソ関係の発動期から、ソ連極東政策が基本的に軌道に乗った1920年代半ばまでの時期に重点を置いたため、1920年代末期から1930年代にかけての日ソ関係及びソ連の極東政策、特に軍事的側面についてさらに追究する余地がある。また、当初予定していたロシア極東のウラジオストクやコムソモールスク・ナ・アムーレ (沿海州文書 GAPK、コムソモールスク市立文書館 KnAGGA) そし

て米国のニューヨークやワシントン (コロンビア大学 Bakhmeteff Archive、National Archives and Records Administration、NARA) での現地調査は、時間・予算関係により困難になったため、今後の課題として残された。

#### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 4 件)

1. Шулатов Я. “Советско-японские отношения в 1920-е годы: формирование подходов” // Актуальные проблемы современной Японии. №28. 2014. С.167-188. [査読無]
2. Шулатов Я. “Борьба с германским шпионажем на Дальнем Востоке во время Первой мировой войны - российско-японское сотрудничество в действии” // Россия и АТР. №2, 2014. С.33-51. [査読有]
3. Шулатов Я. “日露戦争” 『NHK ラジオまいにちロシア語』2016年12月号、132-135頁 [査読無]
4. Шулатов Я. “敵国から同盟国へ” 『NHK ラジオまいにちロシア語』2017年1月号、134-137頁 [査読無]

〔学会発表〕(計 11 件)

1. Шулатов Я. “ロシアの日本研究者と諜報機関 - N.I.コンラドと E.D. ポリヴァーノフの日本出張とロシア軍令部の課題” 来日ロシア人研究会例会、2014年6月7日 (青山学院大学、東京)
2. Шулатов Я. “日露関係の現状と諸問題—二国間関係と国際関係の枠組み”、広島市民講座 (広島市立大学、広島平和研究所主催) 2014年7月04日 (広島)
3. Ya. Shulатов, “Ideology and Pragmatism in the Soviet Far Eastern Policy,” at PANEL: “The Interwar Soviet Union and the Global South - I” (Association for Slavic, East European, and Eurasian Studies (ASEEES), San Antonio, November 20, 2014)
4. Ya. Shulатов, “Soviet Russia at the Far East: New and Old Approaches in Foreign Policy,” 2014年度冬季国際シンポジウム「境界: ユーラシアで交差する動力」、北海道大学 SRC スラブ・ユーラシア研究センター、2014年12月5日 (札幌)
5. Шулатов Я. “日露関係の過去と現在—残された問題と新たな可能性”、広島県庁環境県民局主催講演会、2015年7月 (広島)
6. Ya. Shulатов, “Japan’s Place in Soviet Far Eastern Policy during the 1920s,” 2015年度

夏季国際シンポジウム「ロシアとグローバルヒストリー」、北海道大学 SRC スラブ・ユーラシア研究センター、2015 年 7 月（札幌）

7. Ya. Shulатов, “Russia’s Great War on the Pacific,” at ROUNDTABLE: “Revisiting the Eastern Front: A Centenary Perspective on Russia’s Great War” (International Council for Central and East European Studies (ICCEES), August, 2015) (千葉県幕張市)
8. Ya. Shulатов, “Soviet Strategy toward Japan during the Interwar Period: Withstand, Catch Up, and Overtake,” at PANEL: “Bolsheviks in Interwar Asia: Building an Anti-Imperialist Empire?” (International Council for Central and East European Studies (ICCEES), August, 2015) (千葉県幕張市)
9. Ya. Shulатов, “The Rise and Fall of a Great Power: Japan’s Relations with Russia during the First Half of XX cent.,” (International Conference “One and a Half Centuries in the History of Russia and Japan: The Epoch of Great Transformations”, December, 2016) (モスクワ国立国際関係大学(MGIMO) ロシア)
10. シュラトフ・ヤロスラフ「ロシア革命と対日政策：帝政期からソ連期へ」2017 年度ロシア史研究会大会、2017 年 10 月 15 日（東京大学、東京）
11. Ya. Shulатов, “Transition from Imperial to Soviet: Russia’s Policy Towards Japan after the Revolution,” 2017 年度冬季国際シンポジウム「The Russian Revolution in the Long Twentieth Century ロシア革命と長い 20 世紀」、北海道大学 SRC スラブ・ユーラシア研究センター、2017 年 12 月 8 日（札幌）

〔図書〕(計 17 件)

1. シュラトフ・ヤロスラフ「敵国から同盟国へ — 日露戦争からロシア革命までの日露関係」『世界の眺めかた—理論と地域からみる国際関係』、広島市立大学国際学部叢書 6、千倉書房、2014 年、155-183 頁。[査読無]
2. Шулатов Я. “Глава 5. Япония в первой половине XX в. (1905-1945)” // История Японии: учебник для студентов вузов. Под ред. Д.В. Стрельцова. М.: Аспект Пресс, 2015. С.344-446. [査読無]
3. Шулатов Я., Пестушко Ю. “Россия и Япония на пути сближения (1905–1916)” // Российско-японские отношения в формате параллельной истории. Под ред. А.В. Торкунова и М. Иокибэ. М.: МГИМО-Университет, 2015. С.218-248. [査読無]
4. Шулатов Я., Гринюк В., Ложкина А. “Советско-японские отношения в 1920-х

гг.” // Российско-японские отношения в формате параллельной истории. Под ред. А.В. Торкунова и М. Иокибэ. М.: МГИМО-Университет, 2015. С.326-356. [査読無]

5. Шулатов Я., Ложкина А., Черевко К. “Советско-японские отношения после Маньчжурского инцидента: 1931–1939 гг.” // Российско-японские отношения в формате параллельной истории. Под ред. А.В. Торкунова и М. Иокибэ. М.: МГИМО-Университет, 2015. С.390-418. [査読無]
6. Шулатов Я., Пестушко Ю. “「例外的に友好的」露日関係」五百旗頭真、A.V. トルクノフ他編『日露関係史：パラレル・ヒストリーの挑戦』東京大学出版会、2015 年、153-173 頁。[査読無]
7. Шулатов Я., Гринюк В., Ложкина А. “ソ連外交と対中・日関係」五百旗頭真、A.V. トルクノフ他編『日露関係史：パラレル・ヒストリーの挑戦』東京大学出版会、2015 年、228-247 頁。[査読無]
8. Шулатов Я., Ложкина А., Черевко К. “スターリンの日本像と対日政策」五百旗頭真、A.V. トルクノフ他編『日露関係史：パラレル・ヒストリーの挑戦』東京大学出版会、2015 年、269-295 頁。[査読無]
9. Шулатов Я., Гришачёв С. “Глава 7. 1895-1917: от колониального соперничества к геополитическому союзу” // История российско-японских отношений: XVIII - начало XXI века: Учеб. пособие для студентов вузов. Под ред. С. В. Гришачева. М.: Аспект Пресс, 2015. С.111-131. [査読無]
10. Шулатов Я., Гринюк В. “Глава 9. 1922-1931: установление новых отношений” // История российско-японских отношений: XVIII - начало XXI века: Учеб. пособие для студентов вузов. Под ред. С. В. Гришачева. М.: Аспект Пресс, 2015. С.142-158. [査読無]
11. Шулатов Я., Ложкина А. “Глава 10. 1931-1939: два тоталитаризма” // История российско-японских отношений: XVIII - начало XXI века: Учеб. пособие для студентов вузов. Под ред. С. В. Гришачева. М.: Аспект Пресс, 2015. С.159-173. [査読無]
12. Шулатов Я.「ロシアの日本研究者と軍部 – 日本研究と諜報活動」中村喜和、長縄光男、沢田和彦、ポダガルコ・ピョートル編『異郷に生きる VI – 来日ロシア人の足跡』成分社、2016 年、99-115 頁。[査読無]
13. Шулатов Я.「日露平和条約

交渉』広島市立大学広島平和研究所編『平和と安全保障を考える事典』法律文化社、2016年、472-473頁。[査読無]

14. Ya. Shulatov, “V. L. Kopp and Soviet Policy towards Japan after the Basic Convention of 1925: Moscow and Tokyo’s Failed “Honeymoon”?” in Matsuzato Kimitaka, ed., *Russia and Her Northeast Asian Neighbors: China, Japan, and Korea, 1858-1945* (Lexington Books: Lanham • Boulder • NY • London, 2016), pp.167-185. [査読有]
15. シュラトフ・ヤロスラブ「日露戦争と日ソ関係」下斗米伸夫編『ロシア史を知るための50章』明石書店、2016年。[査読無]
16. シュラトフ・ヤロスラブ「ロシア革命と極東の国際政治 - 日露関係から日ソ関係への転換」池田嘉郎他編『ロシア革命とソ連の世紀 1 世界戦争から革命へ』岩波書店、2017年、203-232頁。
17. シュラトフ・ヤロスラブ「1920年半ばにおける日ソ関係—基本的な方針・アプローチをめぐるソ連側の議論」麻田雅文編『ソ連と東アジアの国際政治 1919-1941』みすず書房、2017年、138-162頁。[査読無]

〔産業財産権〕

出願状況（計 0 件）

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
出願年月日：  
国内外の別：

取得状況（計 0 件）

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
取得年月日：  
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

シュラトフ・ヤロスラブ (SHULATOV, Yaroslav)  
神戸大学・国際文化学研究所・准教授  
研究者番号：30726807

### (2) 研究分担者

なし

### (3) 連携研究者

なし

### (4) 研究協力者

なし